

勉強会(原地区)でのステップ2に関するとりまとめ

●勉強会（ステップ2）のとりまとめについて

勉強会（原地区）では、ステップ2において2回に渡り「地域づくりの目標」について議論してまいりました。これまでの勉強会での議論の整理として、本資料「勉強会（原地区）でのステップ2に関するとりまとめ」を作成しました。本とりまとめは、沼津駅周辺地区勉強会での検討結果とともに、今後、県として「地域づくりの目標」を確定する上での一つの判断材料となります。

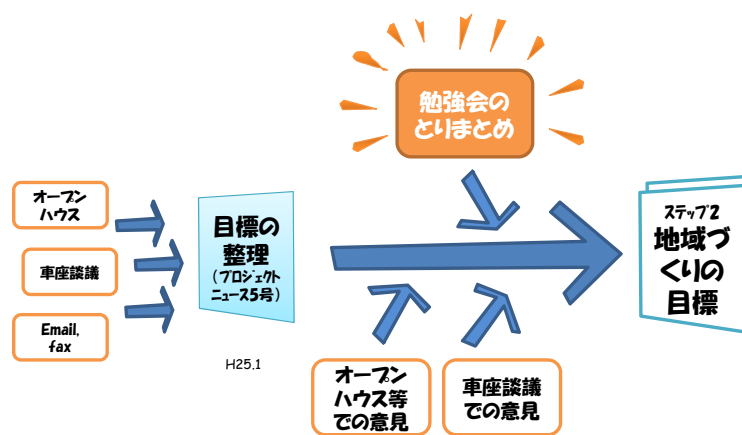


図 ステップ2における目標設定までの流れと「勉強会とりまとめ」の位置づけ

I. 原地区の地域づくりの目標に関する議論

1. 『暮らし』に関する議論

「1-1 のんびりと暮らせる静かな住環境を」について

- ・暮らし続けるために積極的な地域づくりを進めたい。

これまで原地区では、密集市街地整備事業や白隠の里としての整備が行われてきた一方で、迷惑施設が配置されてきた経緯もある。

今後一層高齢化が進み、コミュニティや生活環境が維持できなくなるのは避けたい。これからは「のんびりと暮らせる静かな住環境」を目指すのではなく、原地区の定住人口を増やすために、積極的に地域づくりを行っていくことが必要だ。

- ・原地区の資源である自然環境と景観を守りたい。

産業廃棄物の埋め立てが原因となって生態系が壊れるのではないかと懸念している。浮島などの自然環境やその景観は原地区にとっての観光資源であり、守ることが重要だ。

「1-2 地域への愛着と誇りを大切にしたい」について

- ・自然景観など原地区のそれぞれの地域が持つ魅力を活したい。

富士山、愛鷹山、松原の自然景観を最大限に活かしていくことが重要だ。また、原地区には多くの異なる地域があり、それぞれにテーマ性を持っている。原地区独自の魅力に焦点を当てるように意識を変えることが大事だ。

「1-3 誰もが安心して暮らせる街に」について

- ・各世代からの定住人口を増やして産業・雇用や生活環境の好循環をつくりたい。

若い人や子供などが住みやすく、かつ、高齢者が移り住みたくするような環境を目指し、原地区の定住人口を増やすことが大切である。住みやすい街を目指すことで、介護などの雇用が生まれたり、バスなどの便が向上するなど、住環境が良くなる好循環が生まれるのではないかな。

「1-4 将来を見据え計画的に」について

- ・人と自然が共存できるコンパクトシティを目指したい。

原地区は、これまで非計画的に市街地が開発されてきたのではないかと。南北の交通が現在の生活スタイルと合わず不便であることなど弊害が出ている。

今後は高齢社会に向かうことから、地域のグランドデザインを描くことが大事だ。原地区は、人と自然が共存できるコンパクトシティを目指していきたい。

また、開発圧力に流されないよう、地域が自ら計画を作り発信し守っていく必要がある。

2. 『交流』に関する議論

「2-1 豊かな地域資源を活かして」について

- ・景観と自然環境を観光や商業、新しい産業等の活性化に活かしたい。

人が集まる魅力ある地域にするためには、地域資源を活かして、観光で人を呼び商業等の活性化を図ること、健康や福祉など新しい産業の立地・活性化を図ることが考えられる。

人を呼び込むための地域資源は、富士山のパノラマ、愛鷹山、千本松原、寺町などの景観であり、さらに農、納園、海（磯釣り）などである。例えば、原駅から海へ行きやすくして、磯釣り客を呼び込んではどうか。

「2-2 広域から人を呼び込む」について

- ・周辺の道路・市街地整備のチャンスをつかみたい。

東駿河湾環状道路、新東名のスマートインターチェンジ、原駅前等の整備が進むのは、観光を鍵にしたまちづくりのチャンスである。アクセスや移動をしやすくし、原駅を沼津市の西の玄関口にしたい。

「2-3 賑わいを生む仕掛けを」について

- ・観光だけでなく、新しい産業等での賑わいづくりも考えよう。

観光だけでなく、県のファルマバレープロジェクトを背景にした医療特区など、今後の高齢時代を踏まえた産業や賑わいづくりも考えたい。

また、大きなグラウンド、公園等、親子連れなど多くの人が集まることができ施設があるといいのではないかと。

3. 『産業・雇用』に関する議論

「3-1 商業に活力を」について

- ・観光と組み合わせた商業活性化の仕掛けが必要だ。

原駅周辺に商店を集めるだけでは、地域の商業が活性化するとは考えにくい。例えば、松蔭寺を核とした寺町の散策路を駅からつなげたり、駅でお土産を販売するなど、「観光」と「商業」を結びつけた仕掛けが必要ではないか。

「3-2 産業が集積し雇用を生み出す」について

- ・雇用を生み定住人口を増やすために医療・福祉など新しい産業を誘致できるといい。

多くの人が暮らし続けられる地域にするためには、雇用がなければならないが、現在は工場が撤退している傾向にあり、ものづくり系の企業も縮小しているため、なんらかの対策が必要だ。

ファルマバレープロジェクトの推進もあることから、癒し効果のある自然環境を活かした療養施設や福祉産業を誘致し、若者の雇用につなげることを目指したい。スマートインターができるとう交通の便がよくなり、産業を誘致しやすくなるのではないか。

「3-3「農」に関わる地域の文脈を活かして」について

- ・「農」を軸とした交流を通して農業を守りたい。

原地区は、四季を通じて作付けでき、消費地も近いため、農業生産の場としては恵まれているが、新東名のサービスエリアからの客を想定した農作物の販売など、農業を活かした活性化の可能性はあるのではないか。

しかし、現状では農業就労人口が減少しており、耕作されていない農地もあるため、今後は、例えば、農家が農業未経験者にノウハウを教える体験型農業や、農地を貸し出す市民農園など、都市農村交流の仕組みをつくり、農業の風景を残しつつ、農業を継続させていきたい。

4. 『交通』に関する議論

「4-1 広域からのアクセスのよい地域に」について

- ・広域からのアクセス向上のチャンスを活かして多くの人に訪れてほしい。

愛鷹サービスエリアのスマートインターや新東名サービスエリアへのアクセス道路など、関東からのアクセスしやすくなる。地産地消、雇用創出、防災、文化等の機能を併せ持った場を整備するなど、これを機に原地区の魅力を多くの人々の知ってもらいたい。

「4-2 地域内を安全で快適に移動したい」について

- ・地域内の渋滞解消など、自動車交通の改善が必要だ。

原駅からの南北道路が国道一号で止まってしまうなど、南北の交通が不便である。また、国道一号は渋滞する時間帯があるなど、東西の交通にも課題がある。東駿河湾環状道路ができると、原地区にて通過交通量が増え、さらなる東西の渋滞発生が心配であり、広域的な対応策も必要ではないか。

- ・歩いて楽しい地域にしたい。

さらに、地区内の散策路など、歩いて楽しい道があるといい。

また、原駅の駅前広場や駅前の通りの整備と合わせて、駅の南にも人が降りれるなど、駅をまたいで便利に移動できるようになるといい。

5. 『防災』に関する議論

「5-1 災害リスクに備えたい」について

- ・現在の防潮堤が大きな津波に耐えられるか心配。対策が必要ではないか。

この地域は、高い津波は来ないといわれているが大規模地震と津波が発生した場合、現在の防潮堤が耐えられるのか心配であり、対策が必要ではないか。

- ・放水路の整備と完成までの水害対策が必要だ。

長年の懸念である水害については、沼川新放水路の早急な整備に期待するが、整備が完了するまでの間、ポンプなどの暫定処置が必要だ。

「5-2 いざ災害が起きたら避難できる」について

- ・防災のためにも道路整備が必要だ。

地区内の道路を整備して災害に強い地域にしたい。

「5-3 安心・安全で選ばれる地域に」について

- ・安心して人が集まれる地域にしたい。

安心して人に来てもらうためには、この地域が安全であるのであれば、そのことをPRすることも大事ではないか。

また、水質汚染や水害があることで、桜並木などの地域資源の魅力が損なわれないようにしたい。

Ⅱ．広域的な地域づくりの目標に関する議論

1.『広域的な拠点』に関する議論

「1-1 広域的な拠点地域に」について

- ・他の地域と連携しながら、特色ある地域づくりを進めたい。

県東部地域の中で、沼津市は人口や税収の規模は大きく理想的には県東部地域の中心的な拠点地域になるべきという意見と、現実には他の市に後れを取っており、県東部地域の拠点とは言えないのではないかという意見がある。いずれにしても、三島市などの他の地域と連携しながら、いかに相互に発展するかが課題である。

また、県東部地域という広い視野で沼津市の役割を捉え、沼津駅だけが中心になるのではなく、沼津駅、片浜駅、原駅それぞれを中心にコンパクトシティの姿を示すなど、特色ある地域づくりをしたい。

「1-2 地域でうまく連携して」について

- ・他地域とお互いの個性を活かして連携を図れるといい。

拠点性については、ひとつだけの中心核があるのではなく、各地域が市町村の枠を超えて、それぞれの特色を活かし、相互に必要な機能を分担・補完しあいながら、相互に発展していく方向性を目指したい。

2.『交流』に関する議論

「2-1 交通の要衝として」について

- ・新たな交通拠点を活かして、多くのヒトやモノの集まる観光拠点にしたい。

新東名高速道路などの整備により、沼津駅周辺地区及び原地区を含めた沼津市全体が交通の要衝になり、周遊観光の拠点(ハブ)として賑わうことに期待する。その際、多くのヒトやモノが集まるような沼津独自の魅力が必要である。

「2-2 モノの交流拠点として」について

- ・新たな基盤整備を活かして多くのヒトやモノの集まる物流拠点があるとよい。

スマートインターなどの交通基盤を活かして新たな交通の流れができ、物流拠点が立地する可能性は十分にあるが、そこは、農産物や特産品の販売やヒトの交流拠点でもあるといい。

「2-3 災害時の代替機能や復旧・復興の拠点として」について

- ・広域のかつ総合的な災害時の避難計画が必要だ。

東駿河湾環状道路や新東名のスマートインターチェンジ等との関係性も踏まえ、低所から高所へのアクセス道路の整備、避難拠点の整備など、総合的に避難

のための計画を考える必要があるのではないか。

3.『戦略』に関する議論

「3-1 早く結論を」について

- ・スピード感を持って地域づくりを進めたい。
現状、原地区の活性化はなかなか前進していない。スピード感をもって取り組みたい。

4.『財政と事業効果』に関する議論

「4-1 沼津市財政に無理がないように」について

- ・優先順位をつけて税金を使ってほしい。
税収が下がっている中、災害対策や子育て支援など、優先順位をつけて事業を進めていく必要がある。
- ・市の税収を増やす発想が必要だ。
また、税収が減っているならば、まちを活性化させて税収を増やす発想が必要だ。

「4-2 大きな費用に見合った対策を」について

- ・長期的な視点からも費用と効果を捉えることが必要だ。
費用対効果については、短期的な視点だけでなく、長期的な将来を見据えてどのくらいの効果があるのかという視点から考えるべきだ。
- ・より少ない費用で効果が上がる対策を検討すべきだ。
民間の知恵や人材を入れたり、様々な可能性を検証するなどし、より少ない費用で効果が上がる対策を多角的かつ柔軟に検討すべきだ。

Ⅲ. 進め方に関する議論

1. 『PIの目的』に関する議論

ステップ2では、貨物駅の移転を前提とするのではなく、原地区をどう良くしていくかを話し合う場としたい。

市民の意見を尊重した計画とするためにPIプロジェクトに期待している。

2. 『対話の効果』に関する議論

団体の意見ではなく、個人としての発言をする中では、反論もあってしかるべきで、相手の意見を否定することのないような形で議論していきたい。

3. 『検討プロセス』に関する議論

勉強会での検討テーマを事前に把握し、周囲の人から意見を聞くなどの準備をした上で議論を進めたい。

4. 『検討体制』に関する議論

原地区の地域づくりの議論では、沼津駅高架化や貨物駅移転についての「賛成派」「反対派」だけでなく、より幅広い市民が参加したほうがいい。

原地区の将来や活性化について話し合うのであれば、若者も参加するのではないか。原地区の将来を次世代に引き継ぐためにも、子育て世代（30～40代）や女性の立場・視点の意見が必要だ。勉強会参加者についても様々な年代を混在させて、幅広い意見を出し合えるとよい。

PIプロジェクトの取組みを広く周知することも大切だ。そのためにも参加者数を増やし、日頃から地区で話し合える機会を増やしたい。

また、ステップ2の勉強会のテーマは沼津市政にも関わることであり、沼津市からも何らかの関わりが必要であるし、県と市の連携が必要だ。

IV. ステップ2に関する戦略課題

原地区での目標に関する議論では、単に静かで変わらぬ暮らしができればいいということではなく、積極的に地域づくりを進めることで、無秩序な開発から地域の資源を守り、地域社会を維持・更新していくという強い意思が確認され、先ずは原地区のランドデザインや地域づくりの具体論が基礎となることが指摘されました。

このため、これまでの議論を次につなげることを意図して、個々の地域づくりの目標を束ねた『地域づくりの3つの戦略課題』を整理しました。

●地域づくりの戦略課題①：原地区の誇りである文化と景観を活かして

景観、自然、歴史は原地区の誇りであり魅力でありかけがえのない財産です。この魅力を守り、伸ばし、活かしていくランドデザインを考え、秩序と戦略のある地域づくりを積極的に進めていくことが必要です。今後、治水や交通に関わる基盤整備が進めば開発圧力が高まりますが、乱開発から景観・自然・歴史資源を守るためには、人々が住まい働き集まる場と、自然や景観や農のための場を明確に区別したコンパクトな地域づくりを進め、地域の魅力を守り一層引き立てる秩序と仕掛けを考えていく必要があります。

●地域づくりの戦略課題②：農や自然と共存した産業と暮らしと賑わいを

原地区に人々が住み、また、働き、集うとともに、地域づくりの担い手となることで、大切な地域資源を守ることができるのではないのでしょうか。原の魅力ある地域資源を活かし、定住と雇用と来街者を生み出す戦略が必要です。

原のもともとの魅力と、治水や交通に関する環境変化を上手く活かし、健康、福祉、医療などの新たな産業を誘致して、原地区で直接雇用を生み出すことも考えられます。また、地域に広がる農地を景観資源として活かすためにも、従来の農業だけでなく観光や教育分野と融合した新たな農業の姿も視野にいれつつ、雇用と交流と生産をもたらす戦略も必要です。

●地域づくりの戦略課題③：新たな地域づくりを支える基盤づくり

人が住まい働く場所として地域づくりを進める上では、過去から悩まされている水害を早急かつ抜本的に解決することが喫緊の課題です。また、東駿河湾環状道路の整備や東名、新東名のスマートインターチェンジ整備に伴い、広域アクセス性が大きく向上しますが、大量の通過交通やアクセス交通を担う道路基盤の整備も重要な課題です。これらの機会を上手に活用し、持続可能な地域づくりを進めるとともに、原地区の最大の魅力である歴史と自然資源を活かすためにも、基盤整備と連動した地域づくりとその戦略が必要です。